

【第三種郵便物認可】

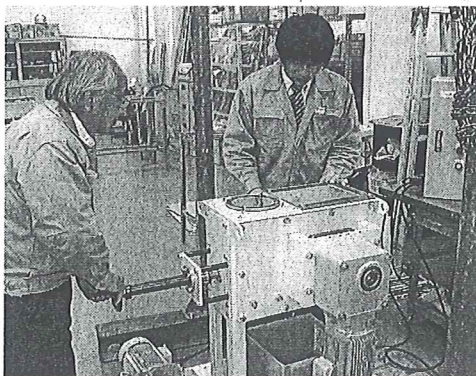
日本経済新聞

5月12日
水曜日

発行所 日本経済新聞社
東京本社 ☎(03)3270-0251
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 ☎(06)6943-7111
名古屋支社 ☎(052)243-3311
西部支社 ☎(092)473-3300
札幌支社 ☎(011)281-3211
電子版アドレス
<http://www.nikkei.com/>
購読のお申し込み
☎0120-21-4946
<http://www.nikkei4946.com>

原子力関連で独自製品

いばらきを興す SPエンジニアリング



放射性廃棄物の減容
処理技術の中核装置

《企業概要》

- ▽本社 茨城県日立市旭町2の2の11
- ▽会社設立 1974年
- ▽従業員数 約35人
- ▽売上高 約20億円
- ▽事業概要 (2009年6月期) 製鉄機械や原子力機器などの設計、製作



泉富栄社長

技術力、日立OBが一役

製鉄機械や原子力関連機器の設計・製作を手掛けるSPエンジニアリング(茨城県日立市、泉富栄社長)が独自製品の開発に力を入れている。大手企業からの受注で培った技術力で、原子力関連施設で発生する低レベル放射性廃棄物の圧縮処理装置を開発した。大学など外部機関との連携も深め、現在はほぼゼロの売り上げに占める独自製品の比率を、将来は3割程度に高めたい考えだ。

「リーマン・ショックによる仕事の減少が、逆に腰を据えて独自製品を開発することにつながった」。泉社長は苦笑いしながら話す。原子力施設の廃棄物処理というアイデアは以前から持っていたが、日常の業務が忙しく、なかなか製品化にまで至らなかった。

開発した放射性廃棄物の減容処理技術は原発関連施設などで発生する手袋などを特殊なシユレックターで細かく切り刻み、真空パックする。廃棄物の容積が小さくなり、ドラム缶などで保管する際の場所や費用が抑えられる。特許も出願しており、原子力関連施設での実証試験を経て、2012年に販売を始める計画だ。

同社は製鉄機械と原子力機器を中心に、設計、製作、据え付け、試運転など一貫したサービスを提供している。日立OBが活躍している。日立OBが活躍している。日立OBが活躍している。

日立OBが活躍している。日立OBが活躍している。日立OBが活躍している。日立OBが活躍している。日立OBが活躍している。

「製鉄関連も今年後半には輸出を中心に回復する」と話しており、来期に生み出すと同時に、独自製品の売り上げは15億円程度まで戻ると見る。しかし、上げに結びつける営業力が同社の成長の力ギとなりに激しくなっており、コリそつだ。

を中心に設計から若手社員の教育までを担っている。長年続けており、同社の技術に対する顧客からの信頼性を高めることにもつながっているという。とはいえ、「受注対応だけでは成長に限界がある」として、製鉄機械などで培ったメカトロニクス技術の蓄積を生かして、独自開発に力を入れる。リーマン・ショック以降は受注が急減、10年6月期は約10億円と半減している、今後は茨城大学など外部との連携にも積極的

茨城

水戸 0299-2211-3288
つくば 0299-8521-0345